



松林桂月 幽山孤村図屏風 1924年



松林桂月 山水図屏風



杉浦明平 家庭菜園にて 1997年撮影

展示解説

11月7日(日) 午前11時
田原市博物館学芸員

田原市博物館・田原市渥美郷土資料館では郷土に関わる作家の作品収集をしています。今回は華椿系の流れを組む作家や小説家杉浦明平らの作品・自筆資料などを展示します。

渥美郷土資料館一企画展示室(2階)
休館日 ◆毎週月曜日
開館時間 ◆午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料 ◆無料

所蔵品展

平成22年 10月16日(土) - 11月28日(日)

渥美郷土資料館 平成22年◆秋の企画展



白井青淵 白川郷B 1986年



白井烟嵩 秋林之図 第10回帝展入選 1929年

松林 桂月 (一八七六～一九六三)
日本画家。明治九年に山口県萩市に伊藤篤一の二男に生まれ、東京へ出て野口幽谷に文人画を学ぶ。本名は篤。明治三十一年に幽谷門下の松林雪貞と結婚し、松林姓となる。日本美術協会展、文展に出品。帝展の審査員、帝国美術院会員、帝室技芸員となる。戦後、日本美術協会理事。昭和三十三年文化勲章。昭和三十八年五月死去、八十六歳。代表作に「春宵花影」など。

白井 烟嵩 (一八九四～一九七六)
愛知県豊橋市花田町に生まれ、松林桂月に師事し、桂月同様帝展・文展・日展に出品した作家として知られる。日展では、第5回「雲行雨施」で特選となり、翌年、無鑑査出品となり、以後、社団法人日展となつてからも、昭和四十三年まで委嘱作家として活躍する。日本南画院日本画会など多くの展覧会にも出品し、豊橋文化賞を受けるとともに、渡辺華山顕彰の功績により田原町町政功労者としても表彰され、遺品は田原市に寄贈された。

白井 青淵 (一九〇九～二〇〇六)
明治四十二年、南画家で官司でもあった白井永川の長男として生まれ、神職を志すとともに父に日本画を学ぶ。四十五歳で羽田八幡宮宮司となる。三十八歳で中村岳陵に師事し、四十歳で日展に初入選し、以後、同展に4回入選。五十一歳で中部日本南画院を創設、八十歳で豊橋文化賞・愛知県文化功労褒状を受賞した。

杉浦 明平 (一九三二～二〇〇一)
愛知県渥美郡福江町(現田原市折立町)に生まれ、旧制豊橋中学を経て、高、東京帝国大学国文学科に進み、立原道造や寺田透らと交流した。第二次世界大戦中、郷里に戻り、戦後は共産党に籍を置き、渥美町議会議員を2期務めた。新スタイルのルポルタージュが評判になり、注目を集めた。共産党から離れた後は、畑仕事にこそしみなながら、郷土の渡辺華山をはじめとした江戸時代の文人を取り上げた小説や評論、食べ物エッセイ、翻訳などの多分野で活躍した。

愛知県渥美郡福江町(現田原市折立町)に生まれ、旧制豊橋中学を経て、高、東京帝国大学国文学科に進み、立原道造や寺田透らと交流した。第二次世界大戦中、郷里に戻り、戦後は共産党に籍を置き、渥美町議会議員を2期務めた。新スタイルのルポルタージュが評判になり、注目を集めた。共産党から離れた後は、畑仕事にこそしみなながら、郷土の渡辺華山をはじめとした江戸時代の文人を取り上げた小説や評論、食べ物エッセイ、翻訳などの多分野で活躍した。